

高木大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録  
(平成28年7月28日(木) 1515～1522 於) 気仙沼市)

1. 発言要旨

昨日から今日にかけてまして、石巻市、女川町、南三陸町、気仙沼市を訪問させていただきました。

土地区画整理事業、災害公営住宅、語り部バスツアー、木材会社、卸売市場、再建中の海水浴場施設、水産加工会社、観光振興団体の取組などの現地視察を行わせていただきました。

石巻の門脇、南浜地区では、区画整理、災害公営住宅の事業が着々と進められており、復興祈念公園や震災遺構と併せて復興を象徴する街区になるというふうに思います。

女川では、漁業集落で住民の意見にきめ細かく対応した災害公営住宅が整備されて、集落がまとまり良く生活再建をしております。また、女川中心部のシーパルピアでは、若い方や外の方が入居されて、にぎわいをつくり出しつつございました。

南三陸の語り部バスツアーは、震災の風化防止にとどまらず、将来世代に災害の教訓を伝えて、また語り部自身の生きがいにもなっているとのことで、観光のみならず様々な効果のある良い取組だと感じました。

また、木材会社や魚市場では、F S CやA S Cといった国際的な認証に対応し、高品質な産品を生み出して、競争力の高い産業への復興を目指しております。袖浜の海岸再生やさんさん商店街の本設に向けた取組で、更にはにぎわいが戻ることを期待したいと思います。

気仙沼では、新商品開発、海外販路開拓に積極的に取り組む水産加工会社が、復興庁の様々な支援策を活用して奮闘されております。また、観光振興団体では水産業と観光産業を連携、融合させて、気仙沼ならではの具体的な観光コンテンツをつくり、観光復興に挑戦されておられました。

いずれでも復興事業の着実な進展を確認するとともに、産業・なりわいの再生に前向きに取り組んでいる方々の力強い話をお聞きすることができました。これからも現場の声をよく聞き、しっかりと復興の支援をしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 南三陸町で木材会社を御覧になったと思うんですが、さっき大臣もおっしゃいましたけれども、今建設中の国立競技場は、F S C材であったりとかというものを使うということが公言されてい

ます。町も是非そういうところで使ってほしいということで、積極的に訴えてらっしゃいますけれども、復興庁あるいは大臣としても、後ろ盾といたしますか、バックアップというか、どういうふうと考えてらっしゃるか教えてください。

(答) 前都知事ともお話をさせていただいて、是非、国立競技場に被災地の木材を使っていただきたい(※)という話をさせていただいて、どういう形で連携していくかという取組を仕掛けたところでもあったんですけれども、今後、都知事が新しく選ばれると思いますので、また新しい都知事が決まりましたら、私の方から、被災地のそういった木材を是非使っていただきたいという話は、しっかりとさせていただきたいというふうに思っております。

※(補足・修正) 都知事に要請したのは、「国立競技場」での被災地木材の使用ではなく、「大会関係施設」での使用。

(問) ASCの話もありましたけれども、カキといった食品の方も、やはり国際規格にのっとった食品を使うというのが今ブームという状況があると思います。その辺はどうお考えですか。

(答) リオでもそのような取組のようですけれども、東京オリンピック・パラリンピックにおいても、選手村等でそういった国際認証が取れた食材を使っていただけるように、私もまたこれから積極的に取り組ませていただきたいというふうに思います。

(問) 参議院選挙が終わってから初めての宮城県入りということですが、改めて宮城県の示された民意について、どのように受け止めているのかというのをお話しいただけますか。

(答) 選挙で与党は、残念ながら当選できなかったわけではありますが、選挙というのは様々な要素でその結果が出るものだというふうに思っております。しかし、与党が苦戦したということは、これは事実でございますので、謙虚に受け止めて、更に被災地の皆様方にしっかりと寄り添う形で復興を進めていくということに尽きるというふうに思います。

(問) 今後、臨時国会等で大型の補正予算等も検討されているようですが、それについての、被災3県の方で与党候補が負けたというようなことが影響というのはあるのでしょうか。

(答) そういうことはございません。

(問) 3点あります。1点は今の質問と関連するのですが、参院選で与党が大勝されたことについて、大臣は閣議後会見で、政策が信任されたというふうな説明をされましたが、大臣が、ある意味責任者の東北の被災3県では全敗されたと。これについて、御自身の復興政策は信任されたというふうに考えてらっしゃいますか。

(答) 先ほど申し上げたとおり、選挙というのはいろいろな要素で結果が出るものがございます。しかし、与党が負けたということは、

これは事実でございますので、そこはやはり謙虚に受け止めて、もちろん反省することもございます。他方、更に復興を加速させるということも必要でございますので、そうしたことも含めて、先ほど申し上げましたけれども、しっかり被災地の皆さん方に寄り添いながら、復興を更に進めていくということに尽きるというふうに思います。

(問) 2点目ですが、内閣改造が8月3日にも控えています。そこで、この期間、参院選後に岩手、福島、そして今回宮城ですけれども、連続で出張されている点について、最後の思い出づくりじゃないかという批判が一部にあるのですが、これについての受止めをお願いします。

(答) 決してそういうことではございません。改造があるやに聞いてはおりますけれども、これは私の方からどうこう申し上げることではございませんので、コメントは控えさせていただきたいというふうに思います。

(問) 最後ですが、仮に内閣改造で御自身が現職を留任されるとか、そういった打診があった場合には続投を希望されるのですか。

(答) それは、私が希望するとか、希望しないとかという話ではなくて、正に総理の専権事項でございますから、それに従うということでございます。

(問) 先ほど補正予算の話がありましたけれども、経済対策の関係で、8月上旬にもまとめられると思いますけれども、復興関係の予算は大体どれぐらいの規模になりそうだというのはいかがでしょうか。

(答) まだ今は検討中でございます。

(以 上)